

学校法人城西大学 国際学術文化振興センター

JOSAI INTERNATIONAL CENTER for the Promotion of Art and Science (JICPAS)

学校法人城西大学
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
☎ 03-6238-1300
http://www.josai.jp/

Newsletter

Josai University Educational Corporation
3-26 Kioi-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎ 03-6238-1300 http://www.josai.jp/

No.22

(2016.3.31 発行)



名誉博士記授与式で挨拶する水田理事長



高円宮妃殿下に名誉博士記を贈呈する水田理事長



式辞を述べる水田理事長

2015年10月31日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は創立50周年記念式典を埼玉県坂戸市の城西大学坂戸キャンパス内の総合体育館で執り行いました。記念式典には高円宮妃久子殿下のご臨席を賜りました。海外の約50校の提携姉妹校の総長・学長・教授、ハンガリーやポーランド、ブルガリアの駐日大使、国会議員、自治体の首長・議員、団体や

協力企業の関係者、城西短期大学と姉妹校の城西国際大学を含めた同窓会員や教職員・学生代表、地域の方々など総勢約1300人が参加して、半世紀の節目を盛大に祝いました。式典に先立ち、高円宮妃殿下の国内外にわたる学術文化発展のための優れた業績と、女性リーダーとして日本国を代表した活動に基づき国際交流の推進、本学の国際教育活動

に対する多大なご貢献に感謝して、名誉博士記を贈呈いたしました。贈呈式の挨拶で水田理事長は「様々な活動を通して日本の国際的な評価を高めてこられました。また、大変温かくて包み込むようなお人柄で私どもを励まし、導いてくださっています。本学から名誉博士記をお贈りできますことをたいへんうれしく光栄に存じております」と述べました。水田理事長は式典の式辞で、創立者の水田三喜男の建学の精神「学問による人間形成」やこれまでの大学の歩みに触れ、「私たちは、これまで推進してきた国際社会と地域社会の連携による人材育成の新しい一歩をさらに踏み出していきたい」と語り、「地域の皆様方、海外の大学の皆様方からいただいたご支援が最も大切なものであったことを深く心に感じています。さらに多くの方々の期待に応えられる大学になるよう努力してまいります」と結びました。

周年記念事業

周年記念事業

**学校法人城西大学創立50周年記念式典を
城西大学坂戸キャンパスにて挙行**

日時：2015年10月31日
場所：城西大学坂戸キャンパス



お言葉を述べられた高円宮妃殿下

高円宮妃殿下は名誉博士記の贈呈に感謝のお言葉を述べられた後、「私たちの祖父母や親の世代が多くの犠牲を払い、懸命に努力したからこそ、今日の平和があり、海外との友好関係があります。先人たちへの敬意と感謝の気持ちを携えながら、私たちが次の世代へと駅伝の襷のようにしっかりとつないでいかなくてはなりません。現在（3大学で）学ぶ若い人たちには、日本の外に目を向けて世界とともに歩んでいくための力を身に付けていただくことを期待しております。創立50周年を機に国際社会で活躍する人材の輩出に一層お努めいただくことをお願いするとともに、大学のさらなる充実と発展、ご隆盛を記念します」とお話しになりました。



来賓祝辞をするセルダハイ大使

力の賜物がこの50年を彩っているものと思っております。この50年の間に素晴らしい大学に成長したと言えることを大変、誇りに思います」と挨拶しました。

セルダハイ・イシユトヴァーン (Serdar Hayirtekin) 駐日ハンガリー大使は来賓祝辞で「水田三喜男先生のまかれた種は大きな実をつけるまでに成長しています。来日するたびに日本の社会が変貌を遂げていることに驚きを感じています。そのようなたゆまない進歩を担う人々を50年にわたり送り出されてきた城西大学の社会に対する貢献に心から敬意を表します」と述べました。

在校生を代表して、現代政策学部3年の高野光一君と大学院薬学研究所1年の小林由希さんが「先輩方が築かれた伝統を大切にしながら世界に広がる城西の輪を、これからの50



祝賀会で来賓祝辞を述べる韓南大学の金総長

年においても、さらに広げていく使命を感じている」「建学の精神をさらに高めていくことを約束します」などと「誓いの言葉」を披露しました。安倍晋三首相からの祝電の披露に続き、学歌斉唱、くす玉割りが行われ、式典を終了しました。

式典に引き続き祝賀会が行われ、水田理事長の挨拶、柳澤伯夫・城西国際大学学長の乾杯音頭の後、来賓祝辞に移りました。昨年4月に高円宮妃殿下に名誉博士記を贈呈し、今年8月には水田理事長に名誉博士記を授与した韓国・韓南大学の金炯泰 (Hyung Tae Kim) 総長は聖書を引きながら「我々も協力と交流を通じて日韓両国の若者が互いの文化を尊重し、学問的に協力し合いながら東北アジアの発展に大きく貢献することを期待しております」述べられました。



水田三喜男記念館展示室を見学される高円宮妃殿下

ました。アトラクションでは、韓国の東西大学校教授重唱団が韓国の歌曲や日本の「ふるさと」「荒城の月」など5曲を披露し、祝賀会に花を添えました。

祝賀会の最後には、これまでの協力に感謝の意味を込めて、父母後援会や薬学協力会、同窓会のほか、海外姉妹校、協力企業やメディア、地域の方々には水田理事長から感謝状が贈られました。また、代表者に城西ファミリー賞が贈られました。

高円宮妃殿下は式典や祝賀会の合間を縫って、7月1日にオープンした水田三喜男記念館展示室をご見学、水田美術館で収蔵する東洲斎写楽の全作品9点などを特別公開した「水田コレクション 精華展」(11月3日まで開催)を熱心に鑑賞なさいました。



約40の提携姉妹校が参加



挨拶する水田理事長



発言するウッチ大学のニキール学長



発言する東西大学の張総長



学校法人城西大学創立50周年記念

「世界学長会議」を開催

日時…2015年11月1日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2015年11月1日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は、創立50周年を記念して、東京紀尾井町キャンパス3号棟の国際

会議室で「世界学長会議」を開催しました。会議には城西大学の森本雅憲、城西国際大学の柳澤伯夫の両学長のほか、前日に坂戸

学校法人城西大学は1965年、坂戸市に城西大学を開校。1983年に同所に城西女子短期大学（2000年より城西短期大学）、1992年には千葉県東金市に城西国際大学を開校しました。法人設立40周年にあたる2005年には三つの大学、三つのキャン

パスを結ぶ中心点として、東京都千代田区紀尾井町に東京紀尾井町キャンパスを開校しました。3大学を合わせた現在の学生数は約1万4000人、卒業生は約10万人を数えます。

キャンパスで開いた創立50周年記念式典に招いた海外の提携姉妹校のうち約40校の学長や副学長らが参加。「グローバル社会と高等教育・新時代における日本の国際教育への提言」をテーマに論議しました。多くの大学の参加を得て、それぞれの国、大学が置かれている現状と今後の展望について積極的な意見交換が行われ、有意義で貴重な会議となりました。

会議の冒頭、水田理事長は挨拶で「日本は国際協力、経済、政治では一定のレベルに達したが、残念なことに国際教育は遅れている。国際教育の推進には、海外パートナー大学との協力や情報共有が必要。教育のグローバル化に対する取り組みや課題について共有し、また我々にアドバイスをいただければうれしい」と述べました。

大学経営に詳しい吉武博通・筑波大学ビジネスサイエンス系教授（城西大学国際学術文化振興センター外部委員）が進行役を務め、2部構成で会議が行われました。第1部では、ケルン大学（ドイツ）▽ブルゴニユ大学（フランス）▽ケンブリッジ大学▽ブダペスト商科大学▽ミコラス・ロメリス大学（リトアニア）▽ウッチ大学（ポーランド）▽ブステイマ大学（ウガンダ）▽カリフォルニア州立大学ロングビーチ校▽貿易大学（ベトナム）▽マネジメント&サイエンス大学（マレーシア）▽東西大学校（韓国）▽天津外国語大学（中国）——の12大学の学長や副学長らがそれぞれ、自校における国際教育の取り組みや課題などを発表しました。



参加者全員による記念撮影

このうち、ブルゴーニュ大学のグレゴリー・ウエグマン (Gregory Wegmann) 副学長は「国際交流の中で、遠隔教育が重要になってくる。さらに他のプログラムと組み合わせることで拡大していきたい」と指摘。ウッチ大学のヴォジニェルツ・ニキール (Włodzimierz Nyzkiel) 学長は「1学期だけ留学生を受け入れる特別なプログラムを作ったところ、中国から220人が来てくれた」と実践例を紹介しました。カリフォルニア州立大学ロングビーチ校のジート・ジョシー (Zeeb Joshee) 副学長は「2020年までに留学生を2倍にするため奨学金ファンドをつくり、世界から教員をリクルートしている」と明かしました。また、城西大学の建学の精神「学問による人間形成」に関連し、「グローバル教育には人格形成が必要。(城西大

学は) 50年前から分かっておられた」と述べました。

東西大学の張済国 (Chang Jekuk) 総長は、城西大学を含めアジアの12カ国20大学で創ったグローバルオンライン講義のシステム「G A A (Global Access Asia)」を紹介し、「アジアの域内問題にも焦点を当ててプログラムを作っていきたい。ぜひG A Aに参加を」と呼びかけました。また、天津外国語大学の修剛 (Xiu Gang) 学長は「これからの人間像には、国際的な視野や適応能力のほか、実践能力が必要。大学はそのためのプラットフォームを作らねばならない」と提言しました。

第2部では、1部の各大学の発言を踏まえて意見交換が行われました。大学は研究機関なのか、教育機関なのかというジレンマや留学生受け入れの資金調達などの学内の問題にとどまらず、国の支援の必要性や域内全体の課題を指摘する声もありました。

吉武教授は「多面的かつ貴重な、深いお話をいただいた。城西大学や城西国際大学だけでなく、日本の大学にとっても勉強になるものだった。それぞれ置かれている状況は違うが、共通した課題が多いことも理解できた。これからの研鑽を積み、さらに皆さんの国、大学と議論をさせていただきたい」と結びました。



名誉博士号を受けた米倉氏 (右から2人目)



講演する米倉氏

2015年10月1日、学校法人城西大学(水田宗子理事長)は創立50周年を記念し、本学理事會顧問で日本経済団体連合會名譽會長の米倉弘昌・住友化学相談役を招いた講演會「民間の力で日本經濟の再生・復活を」

世界の中で成長し続ける」を、東京紀尾井町キャンパス1号棟で開催しました。講演會を記念し、本学は米倉弘昌氏に名誉博士号を授与しました。

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

学校法人城西大学創立50周年記念

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

米倉弘昌氏による講演會を開催

日時：2015年10月1日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

本学は50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響力のある方、優れた研究業績を残された方などを招いてグローバル人材の育成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを展開しています。米倉氏は、5月21日の元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハンマド (Mahathir bin Mohamad) 氏▽6月13日の米ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル (Ezra F. Vogel) 氏▽7月9日のノーベル物理学賞受賞者の小林誠氏▽7月10日のスタジオジブリ代表取締役プロデューサー、鈴木敏夫氏——に次いで5人目の登壇となりました。

米倉氏は1937年、兵庫県神戸市生まれ。1960年、住友化学工業(現住友化学)入社。1965年、米デューク大学経済学博士課程修了。2000年、住友化学代表取締役社長就任。2009年、同会長に就任し、2010年から4年間、第12代の日本経団連の会長を務められました。

名誉博士号授与に先立ち、水田理事長は挨拶で、ハンガリー大使館内に設立されたハンガリー文化センターや本学の日中連携大学院、アイルランドのリムリック大学との学術交流協定などを挙げ、「グローバル教育に力を入れている城西大学にとって、かけがえの

ない支援をいただいた。心から感謝の意を込めて名誉博士号を差し上げたい」と述べました。

米倉氏は講演の冒頭、「名誉博士号を頂戴してまことに光栄に存じます」と述べた後、1950年代の石油化学の国産化に通産大臣として尽力した水田三喜男・創立者に言及して「水田先生の多大な功績に深い敬意と感謝の意を表します」と語られました。その上で、「日本経済の再生と持続的な成長を実現していくためには、イノベーションの加速と海外の活力を取り込むことが必要」と指摘し、「国を挙げての取り組みが、日本経済の本格的な復活につながるかどうか、成否のカギを握るのは、我が国の人材の力」と述べ、人材育成の必要性を強調されました。最後に米倉氏は、ホールや大教室で聴講する約250人の本学生に向けて「皆さんには、高い志をもって、失敗を恐れず、色々なことに挑戦し、自分自身を磨いていただきたい」と呼びかけになりました。

米倉氏は、「日本のイノベーションの課題は『環境問題での日中間の連携の可能性は』との学生や留学生の質問にも丁寧に答えになり、講演会後のレセプションでは留学生の求めに応じて一人ひとりに名刺を渡すなどして歓談のひと時を過ごされました。

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

学校法人城西大学創立50周年記念
水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ
小林忠氏による講演会を開催

日時…2015年11月21日
場所…城西大学坂戸キャンパス

2015年11月21日、学校法人城西大学(水田宗子理事長)は創立50周年を記念し、

岡田美術館館長で国際浮世絵学会会長の小林忠氏を招いた講演会「水田コレクシ



講演する小林氏



スライドを使って名作を紹介

と浮世絵の魅力」を、埼玉県坂戸市の城西大学清光ホールで開催しました。元駐日ハンガリー大使のシュディ・ゾルタン (Sudya Zoltan) 氏ら招待客の方々をはじめ、地域の方々や教職員、学生らホールを埋めた約500人が興味深いお話を熱心に耳を傾けました。

本学は50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響力のある方、優れた研究業績を残された方などを招いてグローバル人材の育成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを展開しています。これまで、5月21日の元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハンマド (Mahathir bin Mohamad) 氏▽6月13日の米ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル (Ezra F. Vogel)

氏▽7月9日のノーベル物理学賞受賞者の小林誠氏▽7月10日のスタジオジブリ代表取締役プロデューサー、鈴木敏夫氏▽10月1日の日本経済団体連合会名誉会長の米倉昌弘氏——の講演会を開催しました。浮世絵研究の第一人者である小林氏は6人目の登壇となりました。

小林氏は1941年、東京都生まれ。東京大学大学院人文科学研究科修士課程(美術史専攻)修了。東京国立博物館資料調査室長や習院大学文学部教授、千葉市美術館館長などを歴任されました。主な著書に『江戸絵画史論』(サントリー学芸賞受賞)、『江戸浮世絵を読む』『江戸の浮世絵』『江戸の絵画』などがあります。

本学の創立者である水田三喜男・元蔵相は、同じく房総出身の浮世絵の創設者・菱川師宣に魅かれ、学生時代から浮世絵を収集。第二次世界大戦の戦火で初期の収集品は消失しましたが、戦後再開して、鈴木春信や喜多川歌麿、東洲斎写楽、葛飾北斎らの役者絵や美人画を中心に収集しました。水田の没後、200点以上の「水田コレクション」が本学の水田美術館に寄贈されています。講演に先立ち、水田理事長は挨拶で「水田コレクションを評価していただいた小林先生は、私どもの美術館にとって非常に大切な恩人であり、美術館の素晴らしい出発点をつくっていただいた。直接、先生からお話をうかがえることは大変幸せなことです」と述べました。

水田三喜男記念
「グローバル・
レクチャー」
シリーズ

学校法人城西大学創立50周年記念

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

南カリフォルニア大学 Dr. Elizabeth M. Daley 先生

による講演会を開催

日時..2015年12月4日

場所..学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2015年12月4日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は、米国・南カリフォルニア大学映画テレビ学部のエリザベス・M・デイリー（Elizabeth M. Daley）学部長を招いた講演会を、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催しました。映画関係者や教職員、城西国際大学メディア学部の学生ら約160人が、メディア学や映画の将来などについてのデイリー氏の貴重なお話を傾けました。

感情に訴えるような表現が埋め込まれているからこそ、現代の私たちも楽しく慰められる」と解説。「文化の背景の違う海外において高く評価されるのは、心の奥底に懐かしさや親しさが浮世絵版画にはあるからだ」と述べられました。また、写楽の作品9点を収蔵していることが、水田コレクションの価値を高めていると強調、名作の数々をスライドによって紹介されるとともに浮世絵版画の変遷についてもお話いただきました。

質疑応答では、「浮世絵に魅了された現代アートはあるか」や「浮世絵版画は一枚の木で一度に何枚つくられるのか」など学生や一般の方々からの質問に丁寧にお答えいただきました。講演会に引き続きレセプションの後、小林氏は、7月に仮オープンした水田三喜男記念館展示室を見学され、水田美術館で展示の浮世絵を鑑賞されました。

本学は50周年記念事業の一環として、内外から世界的に影響のある方、優れた研究業績を残された方などを招いてグローバル人材の育成に資することを目的とする水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを展開しています。これまで、5月21日の元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハンマド（Mahathir bin Mohammad）氏▽6月13日の米ハーバード大学名誉教授のエズラ・

F・ヴォーゲル（Ezra F. Vogel）氏▽7月9日のノーベル物理学賞受賞者の小林誠氏▽7月10日のスタジオリ代表取締役プロデューサー、鈴木敏夫氏▽10月1日の日本経済団体連合会名誉会長の米倉昌弘氏▽11月21日の国際浮世絵学会会長の小林忠氏——の講演会を開催しました。デイリー氏は7人目の登壇となりました。

デイリー氏は1991年、南カリフォルニア大学映画テレビ学部学部長に就任以来、アニメーション・デジタルアート・メディア関連の3学科の新設、ロバート・ゼメキス・センターの創設など、全米ならびに世界をリードする同学部を主導してきました。また、ロサンゼルスを中心とするエンターテイメント業界においても、プロデューサー・研究者として多大な貢献を果たし、全米監督協会の会員でもあります。講演に先立ち、水田理事長は挨拶で「南カ



講演するデイリー氏

リフォルニア大はメディア学の中ではナンバーワンの大学で、デイリー氏はそのリーダーの役割を果たしている。将来、どうメディア学を発展させていくか、今回の講演は重要なチャンスになる」と述べました。

デイリー氏は「An Argument for the Cinematic Arts in a 21st Century University」と題した講演で、「我々の学部はうさくさと思われていたが、今日では変わってきた」と学部の歩みに触れた後、「映画、テレビ、ニューメディアとメディアが我々の生活に与える影響は非常に大きい。それを学ぶメディア学は、人文科学の中心的な役割を果たすべきだ」と強調。また、様々な著名な映画を挙げ、「映画は私たちの時代の文学である」とも述べました。最後に本学のメディア学部而言及し、「アジア、日本で唯一の場所だ。一緒にこの道（メディア学）を続けていきたいと思う」と結びました。



学生の質問に答えるデイリー氏

国際交流活動

東北財経大学の夏学長が来学

日時…2015年10月15日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



学生たちからの「業界の将来に不安がある」などの質問に対し、デイリー氏は「映画、テレビ、アニメ、ニューメディアと仕事のチャンスは無限にある。リスクはあるが、

やりたいのならやるべきだ。コンテンツによって見せる場所はそれぞれ違う。将来に悲観してはいない」などと述べて学生を激励。大きな拍手を受けました。

2015年10月15日、中国の東北財経大学の夏学長は張軍濤教務部長、張語辞国際交流

所長、方愛郷教授とともに東京紀尾井町キャンパスに来学されました。

東北財経大学は、1952年に設立された中国の遼寧省大連市にある財務経済関係の学部を中心とする総合大学であり、財政税務学院、金融学院、経済学院、会計学院、法学院、観光・ホテル管理学院、国際経済貿易学院、国際商学院など計25の学部を有し、学生数は約1万9000人です。世界各国から数百名の留学生を受け入れています。

本学は、天津外国語大学の修剛学長よりご紹介を受けたことをきっかけに、2015年6月2日に東北財経大学と協定を締結しており、今後、大学院・学部レベルで教員・学生の交流を通じた協力関係を構築していく予定です。15日の会談では、既に来年度本学への入学を希望している学生が2名いるとのことのお話を頂戴しました。

水田宗子理事長はその挨拶で、「東北財経大学との交流を広げ、経営管理や医療福祉分野を始め、環境分野、介護分野などインターディシプリナリーな共同教育と共同研究を幅



関係者による記念撮影

国際交流活動

香港国際詩歌の夕べ…水田理事長が招待詩人として参加

日時…2015年11月26日(29日)
場所…香港中文大学、中華人民共和國香港特別行政区



広く行っていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願っています」と述べられ、それに対し夏学長は、「学校法人城西大学と本学は今年の6月に協定を締結したばかりですが、実は、夏徳仁元大連市長や大連外国語大学の陳岩先生を通じてご縁もあり、すでに大変長く親しい気持ちを持っており

ましたので、今回、貴学を訪問できて本当にうれしく思います。今後、教員の交流、また、大学院をはじめ、学部の交流が進むように願っております。」とご挨拶されました。

香港中文大学主催による第4回「香港国際詩歌之夜 International Poetry Nights in Hong Kong」が、2015年11月26日から29日の日

程で、世界各国の著名詩人21名を招待して、香港にて開催されました。



パネル 全景



水田理事長 詩の朗読

日本からは、作家で詩人の多和田葉子氏と本学理事長水田宗子氏の2名が招待され、「Poetry and Conflict」をテーマとしたディスカッションと詩の朗読会に参加し、いままさに問題となっている中東との関係などを含め、非常に深い討論がなされました。

それぞれの300行にわたる自作の詩の朗読の場面では、各詩人に合わせてすばらしい演奏や舞台装置が準備され、よりその詩の魅

力を引き出していました。

世界が直面する課題に対して発揮される詩の持つ力、そして詩人のパワーと影響力の大きさを感じたシンポジウムでした。

今回の香港訪問に際し、本学姉妹校である香港城市大学ウェイ・クオ学長と面会し、50周年記念式典への参加のお礼と本学からの研修受け入れのお礼をお伝えしました。

Mohammed Bennis (Morocco)
Chen Li (Taiwan)
Peter Cole (USA)
Najwan Darwish (Palestine)
Jean-Michel Espitallier (France)
Gemma Gorga (Spain)
Kim Hyesoon (Korea)
ko ko thett (Burma)
Étienne Lalonde (Canada)
Lau Yee-ching (Hong Kong)
Nikola Madzirov (Macedonia)
Agi Mishol (Israel)
Noriko Mizuta (Japan)
Les Murray (Australia)
Fernando Pinto do Amaral (Portugal)
Gleb Shulpyakov (Russia)
Song Lin (China)
Yoko Tawada (Japan)
Anne Waldman (USA)
Wang Xiaoni (China)
Ghassan Zaqtan (Palestin)

招待詩人

フランス・ブルゴーニュ大学の一行が来学

日時…2015年12月2、3日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



2015年12月2日、フランスのブルゴーニュ大学 (Université de Bourgogne) の一行 (代表: Alex Franne, Bernhard Althelm) が東京紀尾井町キャンパスに来学されました。

ブルゴーニュ大学は1722年創立、学生数2万7000人(留学生3000人)。パリの南東約300kmにあるディジョンの街を中心に、ブルゴーニュ地方に四つのキャンパスを持つ総合大学です。

2015年9月に水田宗子理事長を団長とする本学訪問団がフランスを訪れた際、同大学との学術交流協定が締結されました。それを受け、今後の交流プログラム等を見据えた打ち合わせを兼ねて、ブルゴーニュ大学からの訪問が実現したものです。

両学は2日、3日の2日間にわたって大学・大学院レベルの学生交換を含む学生交流プログラムの立ち上げについて意見交換を行い、ブルゴーニュ大学一行は、城西大学坂戸キャンパス、城西国際大学東金キャンパスを往訪しました。

2016年度には、具体的な学生交流が開始される予定です。

学校法人城西大学一行が北京大学、北京師範大学、首都師範大学、清華大学を訪問



日時…2015年12月22日(24日)
場所…北京大学、清華大学、北京師範大学、首都師範大学、中華人民共和国

水田宗子理事長を団長とする学校法人城西大学一行(北村幸久理事長室室長、杉林堅次城西大学副学長、城西国際大学副学長、JIU教員田原先生)は、2015年12月22日から24日まで、北京大学、清華大学、北京師範大学と首都師範大学を訪問しました。

2015年に出版された水田宗子理事長の『モダニズムと(戦後女性詩)の展開』(思潮社、2012)の中国版が北京大学出版社より出版されたことを記念し、首都師範大学と北京大学での講演会とパネル・ディスカッ



ブルゴーニュ大学とのミーティング

ションに招待されました。

22日15時に北京大学の吴志攀副学長、李岩松副学長と面談、今回北京大学出版社から中国語訳が出版された『モダニズムと(戦後女性詩)の展開』を中心に本学と北京大学の今後の具体的な交流について懇談がなされました。

その後、北京師範大学国際創作センター長張清華教授をはじめとする北京師範大学の皆さま方と一昨年以来再会し、北京師範大学国際創作センターと本学国際現代詩センターの協力に関する覚書を調印しました。



北京大学にて

また、今回、同センター所属の莫言教授が残念ながら出席できなかったことに言及され、今後、城西国際大学国際現代詩センターとの協同プロジェクトを詩・批評・文学の面から、企画推進しようと約束がなされました。23日10時より、首都師範大学において『モダニズムと《戦後女性詩》の展開』の中国語出版を記念し、水田宗子理事長による女性詩に関する評論についての講演会が開催されました。北島先生や西川先生をはじめとする中国を代表する作家、詩人、学生たちが集まり、水田理事長の講演に深く耳を傾けました。講演会においては、まだ中国では女性詩、フェミニズム批評という分野がこれからということもあり、非常に活発な質疑応答がなされました。その後、水田理事長は、趙敏俐センター長と首都師範大学新詩学院中国詩歌研究センターと本学国際現代詩センターの協力に関する



首都師範大学にて

る覚書に調印しました。引き続き14時より、北京大学において同じく『モダニズムと《戦後女性詩》の展開』の中国語訳の出版を記念し、『モダニズム』をテーマにしたパネル・ディスカッションが開催されました。これには、中国を代表とする詩人、作家の皆さん方がパネリストとして約20名が登壇しました。それぞれに『モダニズム』ならびに本に言及した発表がなされ、非常に刺激的なパネル・ディスカッションとなりました。通訳は、中国国際放送局の記者でアナウンサーも務める王小燕が担当され、広く広報誌にも掲載されました。会の終了後、北京大学の案内で、国際現代詩創作センターの書院造りの見学を行い、水田理事長に北京大学中国詩歌研究院の研究員の任命書が謝冕教授より手渡されました。また水田理事長と黄怒波センター副所長によ

り、北京大学国際現代詩創作センターと本学国際現代詩センターの協力に関する覚書も調印されました。他方、23日14時、北村幸久先生と杉林堅次先生は清華大学を訪問し、薛其坤副学長や国際教育センターから歓迎を受けました。また、同大社会科学学院 榎舟見所長、張成崗副

本学のアセアン諸国における教育・研究の促進をはかるために、2015年5月一学校法人城西大学アセアン研究センター」が設立され、同11月にはアセアン諸国から城西大学・城西国際大学に留学してきた学生、そしてアセアン諸国の研修学生プログラム等に参加した日本人学生を中心とした「アセアンクラブ」が組織されました。年が明けた2016年1月19日に、彼らの親睦もかねて、東京紀尾井町キャンパス3号棟にて「2016年新年の集い」が開催されました。当日は、水田宗子理事長をはじめ75名の学生・教職員が参加しました。アセアンは10ヶ国からなりますが、今回はそのうち7ヶ国（カンボジア、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ミャンマー、タイ、ベトナム）からの留学生が参加しました。水田理事長からは「日本に留学中は日本語と日本文化をしっかりと勉強するように」と激励のお言葉がありました。マレーシア、インドネシア、ミャンマーからの留学生からダンスの披露もあり、アセアンクラブの学生ネットワークの構築の促進とアセアンに対する認知度の進展



「アセアン研究センター2016年新年の集い」を開催

日時：2016年1月19日

場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



参加者全員による記念撮影

院長等と具体的協議を行うこととし、本学の今後の国際交流のあり方について親しく懇談しました。今回の訪問において、北京大学、清華大学、首都師範大学、北京師範大学との具体的な交流の推進がなされたことで、北京地域における大学間交流が大きく発展しました。

を図ることができました。アセアン研究センターでは、今後さらにアセアン諸国との連携を進めたいと考えております。



本学にて「V4(ヴィシエグラード4)+日本」

安全保障セミナーを開催

日時…2016年2月10日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2016年2月10日、本学東京紀尾井町キャンパス・ホールにおいて「V4(ヴィシエグラード4)+日本」安全保障セミナーが、外務省、V4諸国、本学の共催により開催されました。

中欧のチェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキアの4カ国は、各国間の友好と協力を進めることを目的とした協力の枠組みとして「ヴィシエグラード・グループ」を形成しており、グループの総称として「ヴィシエグラード4カ国(V4)」とも呼ばれて

います。日本でも「V4+日本」として、V4との対話・協力を推進しており、外務省が経済、環境、開発協力・エネルギー効率等のトピックスに関する各種セミナーを行っています。

また、本学は、中期目標でグローバル人材の育成に向けた国際交流活動強化を掲げて世界の様々な大学と積極的に国際交流を深めるなか、特に中欧地域との教育交流を強化しています。

同セミナーを本学が共催で行うのは今年



基調講演を行うドゥップ大使



基調講演を行う武藤外務副大臣

で4回目になりますが、今回はV4議長国であるチェコからの提案で、「安全保障」をテーマとして実施し、セミナーの冒頭で、本学を代表しての水田宗子理事長の挨拶に続き、議長国のチェコを代表してトマーシュ・ドゥップ駐日特命全権大使が、日本政府を代表して武藤容治外務副大臣が基調講演を行いました。

基調講演に続いて行われた各セッションにおいては、我が国およびV4諸国から参加した研究者が、①平和安全保障法制と国際的安全保障協力における日本の役割、②NATO



学校法人城西大学水田宗子理事長一行が

中国北京大學を訪問

日時…2016年3月25日
場所…北京大學、中華人民共和國

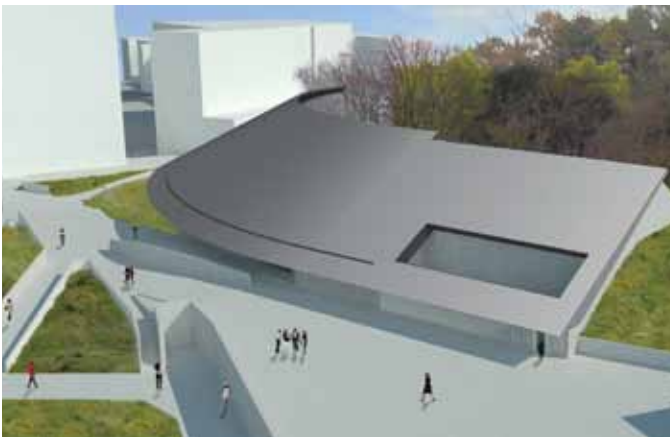
2016年3月25日、学校法人城西大学水田宗子理事長一行は、中国北京大學を訪問しました。訪問の目的は、北京大學における中国詩歌研究センター内に、本学国際現代詩センターを設置し、日中詩歌研究の交流を促進することです。そのためこの日、北京大學において開所式が行われました。式には、両大学関係者を始めとして、中国で活躍する現代詩人の西川氏、瀟瀟氏、北京大學党委副書記の叶静漪氏、日本大使館一等書記の菊池信太郎氏の列席に加え、元スウェーデン大使で現代日本文学の翻訳者として知られるラーシュ・ヴァリエ氏、日本の詩誌出版社「思潮社」で編集を担当する小田康之氏らが列席し、今後の研究交流の発展を祈念しました。

ワルシャワ首脳会合の展望と中東情勢、③東アジアの安全保障情勢、④欧州の安全保障情勢(ウクライナ情勢、難民の流入問題)に関する講演を行い、参加者との間で活発な意見交換が行われました。

セミナーには、外務省をはじめ、15カ国を超える駐日各国大使館員、各大学の研究者、各国のマスコミ、本学関係者、学生、有識者、本学のグローバル教育を支援していただいている企業の方々ら、約120名が参加しました。



開所式の様子



水田三喜男記念館完成イメージ

地鎮祭には大学関係者や工事関係者ら約90人が参加。神職による祝詞奏上などに続いて、学校法人城西大学の水田宗子理事長らが献入れ、森本雍憲学長らが玉串を奉奠して工事の無事を祈りました。

水田三喜男記念館は2階建て延べ約1800㎡。7月1日に総合体育館に仮オープンした水田三喜男展示室のほか、各国からの要人を含むVIPを迎えるゲストエリア、レセプションワークショップなど多様な活動を行うための多目的ラウンジを備え、国際教育や地域連携の拠点となります。また、新薬学部棟は地下1階、地上9階建てで延べ約1万1500㎡。アイソトープセンターや最先端の実験室や研究室を備えます。両建物とも阿部仁史アトリエ代表取締役の阿部仁史氏と久米設計が設計監理。大林組が施工し、2017年3月の完成を目指します。

なかでも庭園中央部のエリアには、城西国際大学創立者である名誉理事長の名前をいた

2015年11月1日、千葉東金キャンパスに「JIUローズガーデン」がオープンしました。学校法人城西大学50周年を記念して、城西国際大学同窓会より寄贈されました。715㎡の庭園には、約70種類、560本の薔薇が植えられ、国際教育を推進する本学にふさわしい世界各国から集められた薔薇で満たされています。

だき「Seiko Mizuta」と名付けられた薄いピンクの薔薇が、また現理事長からも名前をいただき「Noriko Mizuta JU 25」と名付けられた美しい濃いピンクのスペシャルローズが植えられています。この2種類の薔薇は、日本ばら会の富吉紀夫様によって育種され、2014年都立神代植物園で開催されたJRC (Japan Rose Concours) 国際ばらコンクール新品種コンテストの入賞作の榮譽を得、寄贈されたものです。

「JIUローズガーデン」を
千葉東金キャンパスにオープン
日時…2015年11月1日
場所…城西国際大学千葉東金キャンパス



新薬学部棟完成イメージ

キャンパス機能強化

創立50周年記念事業水田三喜男記念館・新薬学部棟起工式を坂戸キャンパスで挙行
日時…2015年10月6日
場所…城西大学坂戸キャンパス

今後3年をめどに、中国語、日本語で書かれた詩集10冊をそれぞれの言語に翻訳、刊行することが、今後の活動計画として確認されました。昨年度、本学では国際現代詩センターに続いて、翻訳センターが設置されており、こうした国際学術交流の全面的なサポートを行います。

東アジアには、詩歌の伝統的なジャンルがありますが、この活動により21世紀グローバルゼーションの流れの中で、国境を超える詩的言語の魅力を解する裾野を広げていくことを目指します。

主挨拶で「様々な課題がありまして思いがけず時間がかかってしまいました。ようやく本日、起工式を挙げる事ができました。皆さまは創立以来、私どもの大学を見守ってくださり、創立者の志を共有して下さって今日ここに至りました。感謝の気持ちでいっぱいです」と述べました。

設計監理者を代表して阿部氏は「この50年が今の日本人をつくるためのプラットフォームだったとしたら、これからの50年は新しい日本人をつくるためのプラットフォームになる。これからの人を形成していく場所の一部の設計にかかわれたことは大変光栄に思っています」と語り、大林組の浦進悟・専務執行役員東京本店長は「労働不足で非常に四苦八苦しているところですが、本社と現場が一体となって1日でも早く工期内に高品質な建物を完成させたい」と述べました。

また、開園を祝し、駐日ブルガリア共和国大使館から寄贈された貴重なダマスクローズも植えられました。
敷地内にはテーブルやベンチも設置され、



JIU ローズガーデンにてオープニングセレモニーでおこなわれた植樹式

学生の憩いの場としてのほか、同窓生、地域の方々など広く楽しんでいただける場所となっております。



Seiko Mizuta (日本)



Noriko Mizuta JIU 25 (日本)

キャンパス機能強化

「JOSAI I-HOUSE東金グローバル・ヴィレッジ」ならびに「高円宮殿下記念ギャラリー」オープニングセレモニーを実施

日時…2016年1月27日
場所…城西国際大学千葉東金キャンパス

1月27日に、千葉東金キャンパスで「JOSAI I-HOUSE東金グローバル・ヴィレッジ竣工式」と「高円宮殿下記念ギャラリーオープニングセレモニー」を実施しました。

国際学生寮の「JOSAI I-HOUSE東金グローバル・ヴィレッジ」は、学校法人創立50周年記念事業の一環として建設が行われたもので、PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK (高円宮殿下

記念スポーツパーク)に開設しました。収容人数は132名で、留学生だけではなく、海外留学を希望する日本人学生も対象としています。世界各国から集まった学生たちが共に生活し、多様な考えや価値観に触れ合うことで、よりグローバルな視野を持った国際人材を育成することをめざしています。

「高円宮殿下記念ギャラリー」には、2002年FIFA日韓ワールドカップサッカー大会ゆかりの品々を展示します。国際交流における人と人との友好の大切さを説かれてきた高円宮殿下の思いを継承する場となります。地域住民の方も見学できるように開放されています。

観光学部のある安房キャンパスにも、「JOSAI I-HOUSE安房グローバル・ヴィレッジ」を2015年9月1日に竣工しました。本学ではグローバルな視野を持った人材の育成をさらに推進していきます。



JOSAI I-HOUSE 東金グローバル・ヴィレッジ



寮の完成を喜ぶ学生たち



高円宮殿下記念ギャラリー



水田理事長らによるテープカット



温室を内覧する参加者

創立50周年記念事業薬用植物園竣工式を

城西大学坂戸キャンパスにて挙行



日時…2016年3月2日
場所…城西大学坂戸キャンパス

2016年3月2日、城西大学（埼玉県坂戸市）の新しい薬用植物園の竣工式が坂戸キャンパス近くの現地で執り行われました。学校法人城西大学（水田宗子理事長）の創立50周年記念事業の一環で、埼玉県薬剤師会の鯉淵肇会長や日本植物園協会の飯塚克身専務理事ら来賓の方々をはじめ、関係業者の代表者、地元の方々、教職員ら約300人が完成を祝いました。新薬用植物園は学生の勉強の場だけでなく、地域コミュニティや社会学習の場としても活用していきます。

城西大学薬用植物園は1973年、薬学部との創設と同時にキャンパス内に設置され、1980年には日本植物園協会に加盟しました。このたび創立50周年記念事業の大きな柱である新薬学部棟の建設に伴い、キャンパスから徒歩約3分の高麗川左岸の敷地に移設しました。敷地面積は約3000㎡。一角に鉄骨造り2階建ての管理棟（約190㎡）、いずれも鉄骨造り平屋建ての高屋温室（約85㎡）と低屋温室（約114㎡）、ポイラー室を整備しました。初の建設となった管理棟は

加工調整室や学習室、資料室などを備え、温室ではパニラやシナモン、マンゴーなどを栽培しています。また、平地ではイカリソウやオウレンなどの薬用植物を自然植生に近い状態で栽培。栽培している植物は約800種類に上ります。

この日の竣工式では神事後、水田理事長が「ここに至るまで多くの皆様方のお世話になり、心から御礼申し上げます。50周年記念事業の一つが完成して本来の教育授業が行われることになってうれしく思います」と挨拶。水田理事長や森本雅憲学長、城西国際大学の柳澤伯夫学長、学生代表らが管理棟前でテープカットをして完成を祝いました。

内覧に引き続き、経営学部棟で行われた記念祝賀会の挨拶で、水田理事長は「植物をいたわり、育てながら健康な社会をつくっていくことを勉強するための素晴らしい場所が

出来て、うれしく思います。一つひとつの植物がその歴史を持つ、物語いっぱいのある薬草園です。そこから学生の皆さんが、様々な物語を紡いでいってほしい」と語り、「緑豊かな学園全体を、ポタニック・ガーデン（植物園）にする50周年記念事業を推進してきましたが、このほど日本植物園協会によって登録されることになりました」と明らかにしました。

鯉淵会長や飯塚専務理事の来賓祝辞に続き、薬用植物園園長の白瀧義明・薬学部教授が植物園を紹介した上で「自然環境や植物に関心を持っていただけますよう、講演会や植物観察会などを行い、地域文化の発展に寄与したい」と抱負を述べました。また、近くの「かびら幼稚園」（土田典子園長）の年長の園児72人による合奏と元氣いっぱい合奏も披露され、祝賀会に花を添えました。

講演会・シンポジウム

Modern Poetry Event III・屋根に残った破れ靴

～日中韓詩人たちの集い～を開催



日時…2015年11月6日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2015年11月6日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで、「屋根に残った破れ靴～日中韓詩人たちの集い～」と題した座談会と詩・連詩朗読会「Modern Poetry Event III」を思潮社の後援を得て、開催しました。学校法人創立50周年を記念するイベントの一

環です。詩人で比較文学者でもある水田理事長をはじめ、中国を代表する現代詩の詩人・評論家の西川（Ki Chuan）氏や国際的に評価の高い韓国の文貞姫（Moon Chung-hee）さん、日本を代表する詩人合せて10人が参加し、現代詩の表現と可能性、言語と翻訳などを巡って語り合い、作品を朗読しました。



座談会の様子

水田理事長は2013年12月、スウェーデン政府から生命の尊厳を表現する東アジアの詩人に贈られる「チカダ賞」を受賞しました。それを記念して2014年6月、同じくチカダ賞受賞者である文さんらを招いた「チカダ賞受賞記念国際シンポジウム」を開催。同11月には、水田理事長と文さんに伊藤比呂美さんを加えた鼎談「Modern Poetry Event III」を開きました。2015年5月には、中国・大連で日中詩人朗読会を開催し、詩の世界的な共通性や普遍性に触れるイベントを開催しました。今回は中国、韓国、日本の著名な詩人たちが集い、詩について語るとともに朗読するイベントを企画しました。



朗読する西川氏

第1部の座談会の冒頭、水田理事長は「50周年を記念してこのほど国際現代詩センターを立ち上げました。今回のイベントはセンター開設記念でもあります。詩は大変個人的な表現ですが、個人を超えて多くの人たちと解りあえるジャンルではないかと思えます。私たちが共有できるものは何か、新しい詩の表現とは何かについてお話いただけたら嬉しいと思います」と挨拶しました。

「屋根に残った破れ靴」という今回のタイトルは西川氏の作品の一部から取ったもので、中国では亡くなった人の靴を屋根に放り投げるといふ風習があるとされます。西川氏は座談会で「詩の読者は少なくなっているが、詩人の交流があることは幸せなこと。詩の存在は我々、現代人にとっても重要なもので、詩人は未知の世界を探求し、発掘していく役割を果たしている」と語りました。

2015年11月7日、東京紀尾井町キャンパス3号棟国際会議場にて学校法人城西大学創立50周年記念国際シンポジウムが開催されました。

このシンポジウムは、「中欧研究とその東アジアネットワーク構築に向けて」という題で、スロヴェニアと東アジア地域における中欧研究者を集め、3部からなるプログラムで行われ、中欧という地域概念の再検討と東アジアにおける中欧研究者のネットワークの形

**講演会
シンポジウム**

国際シンポジウム「中欧研究とその東アジアネットワーク構築に向けて」を開催

日時…2015年11月7日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

成が目的とされました。

第1部「中欧とは」では、Peter Vodopivec 先生（現代史研究所、スロヴェニア）による「Central Europe: Political Idea and Historical Reality」、大津留厚先生（神戸大学）による「中央ヨーロッパの可能性」、西成彦先生（立命館大学）による「中欧か東欧か——その多言語性について」という3報告がなされ、活発な議論が展開されました。

中国東北部で育った財部さんは詩集を出した後、中国語を学んだことが縁で、1988年に中国の現代詩の翻訳を出版したエピソードを披露。「翻訳して中国の人たちの心が解った。翻訳の中で若い詩人として一人入っているのが西川さんだった」と明かしました。また、文さんは「全ての人の中には詩人が息づいている。（今日は）皆さんの中に閉じ込められている詩人と出会ってほしい」と呼びかけました。

第2部の朗読会では、10人がそれぞれ自作を複数点朗読。杉本さんと文月さんの若さあふれる朗読、また、高橋陸郎氏の物語のような詩は涙を誘い、吉増剛造氏と急遽参加のマリアさんの歌ともになされた朗読もその美しさと会場を沸かせました。最後に大連外国語大学の陳岩教授、大連市中日友好学会の杜鳳剛会長、日本現代詩人会会員の佐川亜紀さんも加わって連詩の朗読も行われ、ホールを埋めた聴衆から大きな拍手を受けました。



朗読する文貞姫氏



第1部の様子

第2部「さまざまな中欧研究」では、林志
 菘 (Lin Jie-Hyun) 先生 (西江大学、韓国)
 に よ る “Problematising the Eastern-Central
 Europe in the Postcolonial Perspective”、李
 今芸 (Lee Chinyun) 先生 (国立暨南国際大
 学、台湾) に よ る “Harriet Manufacturing in
 Vysocina”、林温霜 (Lin Wenshang) 先生
 (北京外国語大学、中国) と Liuba Atanasova
 先生 (サウスウエスト大学、ブルガリア) に
 よ る “What do Refugee/Emigrant Flows Mean
 for Central Eastern European Countries?”、
 Bošjan Bertalanč 先生 (城西大学) による
 “Exploring the Origins of Japanese-Yugoslav
 Relations during World War I through the
 Case of Yugoslav POWs in Japan” の4報告が
 ありました。最先端の多様な中欧研究でし
 た。



挨拶されるゲオルギ・ヴァシレフ駐日ブルガリア共和国特命全権大使

第3部「東アジアにおける中欧研究」で
 は林志菘 (Lin Jie-Hyun) 先生 (西江大
 学、韓国)、李今芸 (Lee Chinyun) 先生
 (国立暨南国際大学、台湾)、林温霜 (Lin
 Wenshang) 先生 (北京外国語大学、中
 国)、飯尾唯紀先生 (城西大学) の4人がそ
 れぞれの国の中欧研究の現状を報告し、ネッ
 トワークづくりに向けて議論が行われまし
 た。
 シンポジウムには、国内外から多くの中
 欧研究者やゲオルギ・ヴァシレフ駐日ブル
 ガリア共和国大使館 特命全権大使も参加
 いただき、東アジアにおける中欧研究者
 ネットワークへの強い関心がうかがえまし
 た。



シュミット氏講演

2015年11月16日、本学東京紀尾井町
 キャンパスにてスイス観光庁長官による特別
 講演会が行われました。ユルグ・シュミット
 氏は、1999年11月よりスイス政府観光庁
 長官として務めておられます。マーケティング
 のプロでもあるシュミット氏によるプレゼン
 テーションは、観光大国スイスの魅力を存
 分に聴衆に伝える刺激的なものとなりました。
 講演中の質疑応答では、観光学部生から
 の質問一つひとつに丁寧に応えられ、学部生



プレゼンテーションの様子

にとって大変よい機会となりました。
 本講演の後には、将来観光業での活躍を目
 指す学生たちに対し、外資系ホテル3社によ
 るプレゼンテーションが行われました。「ホ
 テルの業務とは何か」「日本系と外資系ホテ
 ルの違いとは？」など基本的なテーマで分か
 りやすく説明がなされました。その後の懇親
 会では、ホテル業に興味のある学生たちが積
 極的にホテリアの方々とは話す場面を目にする
 ことができました。

**講演会
シンポジウム**

スイス観光庁長官による特別講演会
「観光大国スイスの魅力」を開催

日時…2015年11月16日
 場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

学校法人城西大学創立50周年記念国際日本文化

シンポジウム「音のテクスチャ」を開催

日時…2016年1月13、14日
場所…学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



2016年1月13、14日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は、前近代の日本文化における「音や声」をテーマとした国際日本文化シンポジウム「音のテクスチャ（TEXTURES of SOUND）」を、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催しました。学校法人創立50周年を記念し、城西国際大学日本研究センターとヨーロッパアンセンターが主催、国際人文学部と国際学術文化振興センターが共催しました。各国で活躍する高名な日本研究者による先端的な研究成果の発表が



基調講演するシラネ教授

あり、オーラリティ（声の文化）や音楽の果たす役割などについて活発な意見交換が行われました。13日の開会式で、水田理事長は「私どもは『世界の中の日本』という講座を手掛けてきました。今回のシンポジウムはその集大成として企画したものです。先端的なテーマを新しい文化の課題として取り上げることによって、人文科学全体の勉強の仕方、あり方に示唆をいただけるシンポジウムにしたいと思えます。新しい研究成果をお聞きいただきたい



川嶋さんの琵琶演奏に聴き入る参加者

い」と挨拶しました。また、城西大学、城西国際大学の杉林堅次副学長は「前近代の日本の美術、音楽、文学に関して議論していただくという画期的なテーマと内容を立案していただき光栄に思っています」と、参加の研究者の方々に対する感謝の言葉を述べました。その後、コロンビア大学のハルオ・シラネ教授が「共同的記憶の形成における声、身体、音楽…中世日本の説話のメディア再考」と題して基調講演。シンポジウムを記念して琵琶奏者の川嶋信子さんが、『平家物語』から「祇園精舎」「福原落」「壇ノ浦」の3曲を披露しました。

この日は、アン・バーリントン駐日アイルランド大使やイシュトヴァーン・セルダハイ駐日ハンガリー大使、マグヌス・ローバック教授が「共同的記憶の形成における声、身体、音楽…中世日本の説話のメディア再考」と題して基調講演。シンポジウムを記念して琵琶奏者の川嶋信子さんが、『平家物語』から「祇園精舎」「福原落」「壇ノ浦」の3曲を披露しました。

2日目の14日は、以下のプログラムで発表と意見交換、質疑応答が行われました。最後に今回のシンポジウムの企画やプログラムの作成に尽力いただいたメリッサ・マコーミック教授が「城西大学には主催の労を取っていただきありがとうございます。研究者の皆さまには、高いレベルで新しいテーマに取り組んでいただき感謝いたします」などと、まとめのスピーチをされました。

両日ともシンポジウム後はレセプションが行われ、著名な研究者を囲んで歓談のひとときを過ごしました。

プログラム

午前	ユージン・ワン教授(ハーバード大学) 正倉院の琴:どのような曲を弾いているのか?
	アシュトン・ラザラス准教授(シカゴ大学) 初期中世日本の民俗芸能とサウンドスケープ
	大内典教授(宮城学院女子大学) 記されないものは何か—仏教音楽の記譜法
●意見交換と質疑応答 コメンテーター…ディディエ・ダヴァン教授(フランス国立極東学院・東京)	
午後	メリッサ・マコーミック教授(ハーバード大学) 声を見る:日本の絵巻における対話描写とメタナラティブ
	岡田美也子准教授(城西国際大学) 琴を弾く女—中世説話の音とイメージ
	ユディット・アロカイ教授(ハイデルベルク大学) 和歌のオーラリティに対する江戸時代後期におけるアプローチ—詩的言語の即時性を探る
●意見交換と質疑応答 コメンテーター…ハルオ・シラネ教授(コロンビア大学)	
タイモン・スクリーチ教授(ロンドン大学) 初期近代の東洋と西洋における絵画のパフォーマンス	
●意見交換と質疑応答 コメンテーター…ユキオ・リビット教授(ハーバード大学)	



華嚴経絵



講演するジェス氏

学校法人城西大学創立50周年特別講演会・ジャック・ジェス氏による「仏教の中国・日本での発展」を開催

講演会
シンポジウム

日時：2016年1月20日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス

2016年1月20日に学校法人城西大学（水田宗子理事長）は創立50周年記念の特別講演会として、元ギメ・フランス国立東洋美術館長のジャック・ジェス（Jacques Gies）氏による「仏教の中国・日本での発展（Integration of Buddhism in China and Japan）」を東京紀尾井町キャンパス3号棟で開催しました。

0（イナルコ、国立東洋言語文化学院）で中国文明・言語の博士号をとられたあと、両方の大学やエコール・デュ・ルーブルで長く教鞭をとられ、また国立ギメ東洋美術館の中国・中央アジア絵画彫刻部の主任キュレーターを長年担当された後、館長（2008年―2011年）となり、その他も歴任されました。

本講演に先立つ挨拶の中で、水田理事長より、城西大学グループでは「世界の中の日本」という視点に立ち、日本の芸術・文化を世界の中に位置づけ、その受容・伝播の過程における変化や相互の影響を教育と研究の対象に

し、また美術館の運営を学ぶために学生を海外に送っていることの紹介がありました。

ジェス氏は、中国への仏教の伝来と普及というふたつの時代に美術史の観点から焦点を当て、ギメ美術館所蔵の色彩豊かな敦煌壁画のスライドを写しながらお話しを進められました。ギメ美術館所蔵のペリオコレクションの色鮮やかな華嚴経変相の敦煌絵画の2点は掛幅画としては大変稀で貴重なものですが、敦煌石窟の壁画には第6窟、9窟、55窟や61窟、76窟などには華嚴経の壁画があります。仏教は中国からさらに日本や韓国に伝わりますが、奈良時代に建立された東大寺の大仏はこの華嚴経の教主の盧舎那仏で、その坐る円座の蓮弁には線画で華嚴の世界が美しく線刻されており、また1770年に韓国の松広寺で保存状態の良い華嚴経絵が発見されています。仏教はインド・中央アジアからシルク

ロードを通り、中国に伝わり、そこで発展し、その道はさらに日本や韓国につながりました。

講演会には仏教美術の研究者などのゲストや大学の教職員、「世界の中の日本」の授業履修の学生が多数出席し、講演会後のレセプションでは日本文化やフランスについての話題で盛り上がりました。

ギメ国立東洋美術館は、パリ市内のトロカデロ（イエナ広場）にあり、欧州では最大の東洋美術品を所蔵しています。日本関係も充実していますので、今後、フランスへの研修や留学で教職員や学生が訪問する機会もあると思われれます。

講演会に先立ち、1月19日学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス3号棟ギャラリにて、ミュージアム・カフェを開催。ジェス氏にフランスギメ国立東洋美術館の歴史と概要について、お話しいただきました。

学校法人城西大学創立50周年記念・鈴木健二先生による水田三喜男伝『寒椿』出版記念講演会を坂戸キャンパスにて開催

講演会
シンポジウム

日時：2016年2月6日
場所：城西大学坂戸キャンパス

2016年2月6日、学校法人城西大学（水田宗子理事長）は、創立者の水田三喜男・元蔵相の評伝『寒椿』の出版を記念して著者の鈴木健二・城西国際大学客員教授の講演会を城西大学坂戸キャンパスの清光ホールで開催しました。創立50周年を記念したもので、作家の保阪正康氏、志賀直温・東金市長はじめ、教職員・学生や地域の方々から約500人が、熱心に耳を傾けました。

鈴木氏は1942年生まれ。東京大学大

学院博士課程修了。毎日新聞ワシントン特派員や政治部副部長、論説副委員長、成蹊大学教授兼アジア太平洋研究所所長を経て、2013年から現職。主な著書に『ナショナルリズムとメディア』『日米「危機」と報道』『戦争と新聞』などがあります。鈴木氏は1970年代初めから創立者が亡くなる76年まで、最後の「水田番記者」として蔵相や派閥（水田派）の領袖として活躍した創立者と間近に接しました。



講演する鈴木氏

講演に先立ち、水田理事長は「創立者の伝記は、これまでまとまったものがなかった。深く広く創立者を知ってもらいたい」と、鈴木先生にお願いしたところ快く引き受けていただいた。素晴らしい本で、多くの方からお便りをいただき、広く読まれていることは、とてもうれしいことです」と述べました。

鈴木氏は「水田三喜男の世界と21世紀の日本」と題した講演で、「水田先生は大変な勉強家であり、のどから手が出るようなお金があっても痩せ我慢した清廉な政治家だった」「憲政の常道に従う」が先生の政治信条だった」などと紹介しました。「政治の限界を悟り、考えた末に新しい道を教育に求めた」と指摘、創立間もない頃の資金難に関連し石油連合会の会長から「神様が神様（水田先生）を裏切ることはない」と言われたというエピソードも披露しました。

最後に鈴木氏は、1969年の第1回卒業



レセプションで挨拶する保阪氏

式の訓示に触れ、「学問による人間形成」に続く、「人間の形成は、新たな環境を作り出さんとする苦闘と努力の中にこそ求められる」との言葉こそが、水田先生の言いたかったものではないか。城西大学が新たな環境に向けて、さらなる苦闘と努力を重ね、100周年を迎えることを願っています」と結びました。

同キャンパス経営学部棟のメディアエリアに会場を移したレセプションでは、来賓の方々や地域の方々と交えて歓談のひとときを過ごしました。保阪氏は挨拶で「田中角栄さんらは時代を代表した人たちだったが、水田先生は歴史を支えてきた人。水田先生のように歴史に生きた人、理論をきちんと持っていた人が、次の時代に語られ、残っていくべきだと思います」と述べて、大きな拍手を受けました。

『寒椿』（2,500円＋税）は2015年7月、学校法人城西大学出版会から出版されました。



座談会の様子

学校法人城西大学（水田宗子理事長）は東日本大震災から5年目の2016年3月11日、3・11の惨事を詠った詩人と俳人による座談会と詩の朗読会「荒ぶるゆりかご——3・11の惨事への詩的な応答——」を、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催しました。朗読会は本学の国際現代詩センターが主催し、詩人や研究者、市民の方々、本学の教職員・学生ら約300人が参加、震災の記憶を新たにしました。

登壇したのは、俳人の高野ムツオ氏のは



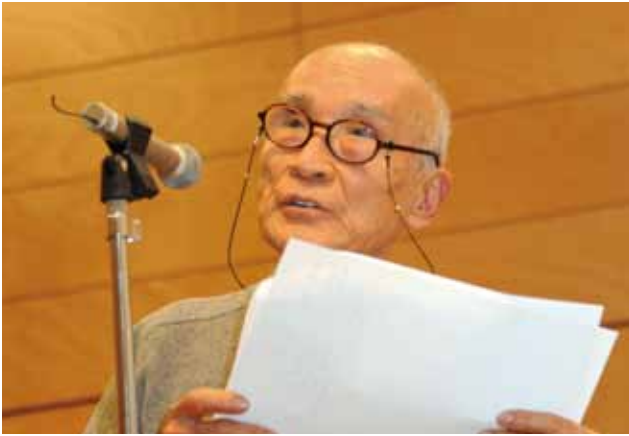
朗読する高橋氏（左）と訳すアングルス氏

か、詩人の新井高子、ジェフリー・アングルス（Jeffrey Angus）、大崎清夏、白石かずこ、高橋睦郎、田中庸介、谷川俊太郎、田原、平田俊子の9氏に加え、詩人でもある本学の水田理事長（50音順）。また、学校法人城西大学出版会では、登壇した詩人たちがそれぞれ発表した詩を英訳した詩集『These Things Here and Now: Poetic Responses to the March 11, 2011 Disasters』（ジェフリー・アングルス氏編・訳）を刊行します。今回のイベントは、詩集刊行の記念も兼ねて開催しました。

講演会
シンポジウム

学校法人城西大学国際現代詩センター主催「荒ぶるゆりかご——3・11の惨事への詩的な応答——」を開催

日時：2016年3月11日
場所：学校法人城西大学東京紀尾井町キャンパス



朗読する谷川氏



朗読する新井氏



朗読する白石氏

イベントは午後2時半開会。主催者を代表して水田理事長が「アングルスさんの翻訳により、私たちの経験が広く世界の人たちに届くことは、大変素晴らしいことと思います」などと挨拶しました。震災の発生した午後2時46分に、多くの犠牲者の冥福を祈って1分間の黙祷を捧げた後、米・西ミシガン大准教授で日本文学研究者でもあるアングルス氏が「東日本大震災と日本詩歌」と題して基調講演。「震災後、詩歌は他の文学ジャンルよりも早く反応した。社会における詩歌の立場が再考された」と述べました。

第1部の座談会（白石氏を除く10人）で、高野氏は「俳句はあまり時事的な出来事を詠んでこなかったが、今回の大震災にあたってはたくさん俳句が生まれた。17音の俳句だけにしかない固有の言語の力があつたのだと改めて感じた」と語りました。また、高橋氏は「言葉が科学を生み、原子力を生み、その結

果が災害を生んだ。言葉は無力だが、地球は我々人間のものだけではないということ伝えていくのも言葉しかない」と強調しました。新井氏は「東北の言葉を覚えるのも、ひとりの詩人としての仕事かと思う」と述べて、東北の方言である「ヶセン語」で詠まれた詩を紹介しました。水田理事長は「惨事は、人の心にしまわれた存在の原点のようなトラウマと響き合う、そこから他者にも響く表現が生まれてくるのではないか」と述べました。また、谷川氏は会場からの質問に答えて「言葉は使われ方によって無力になったり、無意味になったりするものだから、自分自身の中自分の言葉を生まれさせて、他人の言葉をどう自分の中に取り込むしかないと思っ

た」と語りました。高橋氏は今回の詩集のタイトルの元になった「いまここにこれらのことを」を、大崎氏は「うるさい動物」、田中氏は「からし壺」、水田理事長は「青い藻の海」、田氏は「津波」など、平田氏は「ゆれるな」などを朗読しました。そして谷川氏は「言葉は壊れなかった／流されなかった／ひとりひとりの心の底で／言葉は発芽する／瓦礫（がれき）の下の大地から」と綴る「言葉」などを朗読しました。最後に、白石かずこ氏が「海、陸、影、岩沼／津波、津波がやってきた」と詠う「海、陸、影」を朗読。聴く者の魂を揺さぶるような朗詠に涙をぬぐう人の姿もありました。朗読後、「皆さんも祈ってください。魂のかぎり」と呼びかけた白石氏に大きな拍手が送られました。

第2部は白石氏を含めた11人による朗読会が開かれました。最初に高野氏が「四肢（へ地震（ない）ただ轟轟と轟轟と）」などの震災詠7句を披露。その後、詩人たちが、詩集『These Things Here and Now: Poetic Responses to the March 11, 2011 Disasters』に収録された詩を朗読しました。このうち、

この日はホール前のホワイエで、版画家、美術家の柳澤紀子氏の特別展「夢の地面」も開かれ、参加者が見入っていました。なお、詩集『These Things Here and Now: Poetic Responses to the March 11, 2011 Disasters』（2000円＋税）は3月31日発行予定です。

表彰

水田理事長がメディア4社から感謝状を授与

日時…2015年10月13日

表彰

2015年10月13日、学校法人城西大学の水田宗子理事長は、学問と人材育成を通して地域に多大な貢献をしたとして、埼玉新聞

社、テレビ埼玉、千葉日報、千葉テレビの4社から感謝状を授与されました。

●周辺図



アクセス インフォメーション

- 東京メトロ有楽町線 麹町駅 1番出口より徒歩3分
- 東京メトロ半蔵門線・南北線 永田町駅9a番出口より徒歩5分
- 東京メトロ丸の内線・銀座線 赤坂見附駅D出口より徒歩8分
- JR中央線・総武線 四ツ谷駅より徒歩10分



学校法人城西大学は、城西大学のキャンパスがある埼玉県坂戸市や城西国際大学のキャンパスがある千葉県東金市や鴨川市などでそれぞれ、地元行政や地元メディアとの合同企画などを開催、積極的に地域に根ざした活動を展開してきました。

感謝状は学校法人50周年を記念して授与されたもので、感謝状では「広く県民に国際色豊かな様々な取り組みにおいて多くの話題や機会を与えていただいた」とし、「創立者の建学の理念である『学問を通しての人間形成』『社会に有為な人材の育成』を具体化し国際社会と日本社会が求める人材育成を实践されました」と授与の理由を説明しています。

東京都内のホテルで行われた授与式で、水田理事長は「大きな節目の年に身に余る感謝の言葉をいただき感激です。大学の成果はな

かなか形になりにくく、卒業してからようやく成果が現れるものです。それが、こうして地元報道機関から評価していただいたことは、何よりの励みです。これからも地域の発展、人材育成に貢献してまいります」と謝辞を述べました。



水田理事長を囲んで埼玉、千葉のメディア4社社長

学校法人 城西大学



〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26 TEL.03 (6238) 1300

学校法人 城西大学 <http://www.josai.jp/>

城西大学 <http://www.josai.ac.jp/> 城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26

TEL 03 (6238) 1300 FAX 03 (6238) 1299